現場で知る沖縄の歴史／島内の１５戦跡巡る

伊江わびあいの里が企画

日本軍守備部隊本部壕とされる地で説明する川島淳氏＝伊江村の城山

【伊江】民泊受け入れ民家にも役立ててもらおうと、伊江村東江前のわびあいの里（山内徳信理事長）はこのほど、「伊江島を巡る」と題して村内の戦跡を巡る勉強会を開き、関係者ら約30人が参加した。

講師は、元伊江村史編さん嘱託員で那覇市歴史博物館の古文書解読員を務める川島淳さん。2005年12月から08年7月までの約3年間で「伊江村史2」を編さんした。

参加者は壕を中心に村内を移動しながら約15カ所の戦跡を巡り、歴史的背景の説明を受けた。参加者からは「戦後、疎開先から戻ると疎開前になかった幹線道路が造られていた」などの証言があった。

戦争体験者で当時小学1年生だった大城ヨシさん（76）は「戦争が二度と起こらないように語り継ぎ、伝えてほしい」と要望した。

川島さんは「伊江村史2を読み返し、当時の証言者の話が思い出され、涙が出る思いだった」と語った。

（中川廣江通信員）

2013 年 12 月 30 日 朝刊 地方1面（市町村）(地1) 1 版 20 頁

琉球新報